

2024年度 事業報告書

特定非営利活動法人ふるすあるは

1 事業の成果

定款上の事業名

(1)情報サイトの運営事業

「子ども情報ステーション-精神障がいをかかえた親とその子どもの応援サイト」を運営し、年間で38万人のアクティブユーザー、63万人の新規ユーザーによるアクセスがあり、152万ページビューを記録した。

2025年5月には同サイトの全面リニューアルを実施し、システム更新、情報整理、デザイン刷新、スマートフォン最適化を行った。これにより、ユーザー体験の向上とセキュリティ強化を図った。

(2)心理教育絵本、テキスト等による普及啓発事業

『生きる冒険地図』『ゆるっとこそだて応援ブック』の普及活動を継続し、絵本サポーターを通じて新たに275冊を届けた。これまでの累計寄贈数は約2,700冊となった。

また、啓発チラシ「親が精神疾患になったときの子どもと親のケアガイド」を約5,500枚発行し、イベントでの配布や、キッズパワーサポーターの協力による配布を行った。

キッズパワーサポーターおよびメールマガジン会員約2,500名に対して、毎月の情報配信を継続した。

新たなコンテンツとして、2023年刊行の絵本『こころにケガをしたらートラウマってなんだろう？』（ゆまに書房、原案・解説：犬塚峰子氏）に対応したワークブックを制作し、より実践的なツールとした。

オンラインストアでの販売やイベント出展を通して、家族のこころの病気を子どもに伝える絵本・子どもの気持ちを知る絵本、気持ちに関するアイテム等を約2,000冊／個普及した。

(3)セミナー等による課題の認知拡大、社会への普及啓発事業

さいたま市で開催した「子どもの気持ちを表現した絵と活動の展覧会」(さいたま市高次脳機能障害者支援センターとの共催)は、毎年恒例の企画として定着し、約3,000名が来場した。

また、12回のセミナー登壇・シンポジウム発表・情報提供の機会を通じて、精神障がいの親と子どもの支援、および精神保健に関する普及啓発活動を実施した。

(4)目的を同じくする他団体等との情報交換や他団体と連携した協働事業

精神障がいを抱える親と子どもの支援に取り組む全国の関連団体や書籍等の情報を随時更新し、情報サイト上で紹介した。これにより、支援分野全体の情報共有と普及啓発に努めた。

また、病気や障がいをかかえながら子育てしている親やその子どものための制度や相談窓口を「権利」の視点から整理した情報シートを、関連アイテムへと展開し、情報提供の機会を拡大した。

2 事業の実施に関する事項(2024年10月1日 ~ 2025年9月30日)

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数		支出額(千円)
情報サイトの運営事業	情報サイトの運営	通年	事務所、オンライン	5名	精神障がい の親とその 子ども、支援者	約63万人	2,975千円
心理教育絵本、テキスト等による普及啓発事業	チラシ配布による啓発	通年	事務所	3名	同上	約5500人	7,737千円
	イベント出展・オンラインでの絵本販売	通年	滋賀、東京、埼玉	10名	同上	約2000人	
	絵本献本	通年	沖縄、高知、千葉、石川他、全国	8名	同上	約300人	
	精神保健啓発ツール制作	通年	埼玉	3名	同上	約10,000人	
セミナー等による課題の認知拡大、社会への普及啓発事業	セミナー講師	通年	兵庫、東京、埼玉、オンライン等	3名	セミナー参加者	約600人	395千円
	啓発イベント	8月	埼玉	10名	イベント鑑賞者	約3000人	
他団体と連携した協働事業	情報発信	通年、3月	事務所、東京	3名	精神障がい の親とその 子ども、支援者	約500人	52千円